

## 長野県

事業所管：長野県農政部農業政策課農産物マーケティング室  
地域事務局：株式会社産直新聞社

### ● 未利用資源を活用したアップサイクルの取組による地域循環型社会の創出

生育過程で間引かれる「摘果リンゴ」を活用した新商品開発を通して、農家の収益向上や加工残渣の堆肥化、農地への還元など循環型ビジネスモデルを構築し、そのノウハウを広く共有することで、未利用資源を活用した循環型社会の創出と地域活性化を目指す。

LFP パートナー数

64 社・団体  
(2023.3 現在)



摘果リンゴを有効活用した、アップサイクル型のお土産商品「アップルパイ（果の山）」。



### 新たなビジネスの価値

- 未利用資源の摘果リンゴや、自然災害等により傷付いたリンゴを利活用して、新たな付加価値を生み出すことで、農業者・加工業者・食品メーカー等が連携した「相互扶助の仕組み」を創出。
- 摘果リンゴの利用拡大に向けて、大きさの取扱い基準や、防除暦の確認等のノウハウを提供し、長野県内のリンゴ産地において未利用資源の有効活用を促進する。

### プラットフォームの体制

- 地域の食と農に関わる事業者とのネットワークを有する専門誌の出版社が事務局となり、多様な業種の事業者が参画。

農業者、農産物直売所、食品メーカー、流通・販売、製造業・IT関連、広告、産業資材メーカー、研究機関、大学、マスコミ、メディア、市町村、公的機関など。

### ビジネス創出のプロセス

- ワークショップでは、「未利用資源の有効活用」をテーマに、今年度は3つの取り組みが提案され、プラットフォーム内でのマッチング等による技術支援などを行い、3つの新たなビジネスを創出した。
- 月1回程度、オンラインを活用し、定例会議を行い、各取り組みの推進状況の報告、課題に対して、アドバイス、技術支援・ノウハウが共有され、磨きあげが行われた。

### 新しい取組・仕組みづくり

- 摘果リンゴのアップサイクルに加えて、台風の影響で傷が付き、商品にならないリンゴの活用にもつなげるなど、地域課題の新たな解決方法を見い出した。
- リンゴの加工残渣のたい肥化にあたり、キノコの使用済み培地を活用して水分含量を低下させるなど、技術シーズと組み合わせることで、課題解決が図られた。



アップサイクルの流れをイラストで表現し、循環モデルが伝わりやすくする工夫も行った。